

みんなで人権^{じんけん}を考える「つなぐ」 TUNAGU II

そのだ ひさこ

「TUNAGU II」とは

人と人、心と心をつなぐ、世界とつなぐ一人権尊重のまちづくりの一環として、さまざまな人権問題について市民の皆さんと共に考えます。

「思い」のりレー 実践事例集の出版

7月の終わり、『絵本 いのちの花が生まれでた!』という本が福岡県人権研究所から発刊された。20人余のいろいろな分野の方々に執筆していただき、私自身も執筆・編集するという作業をした。5年前には英語版も出版した絵本『いのちの花』(被差別部落の史実と伝承の絵本)の実践事例集である。内容の半分余は県内で絵本を使った授業の記録であり、授業の流し方の事例や子どもたちのカラーのすばらしい感想画や感想文も紹介している。

執筆者は多岐にわたっている。絵本の英語訳をしてくださった英国のオックスフォード大学名誉教授、埼玉県の「原爆の図」が展示されている丸木美術館の方、また筑紫野市の部落解放運動にかかわってきた方のそれぞれの論評を載せている。さらには、岐阜県の真宗大谷派の寺院での原画展の記録や筑紫野市民の方々による現地学習の記録などのページもある。

コロナ禍や豪雨などの自然災害にさいなまれつづけている昨今、同時に、幼児が頼り、よりどころとしている親や身内の者がその命を奪うという人間の

惨事に、心つぶれてしまったりする世の中。そんな中で、世界的規模で迫られているのは、どうすれば人間は自然と共存して生きのびることができるかという課題であり、もう一つはどうすれば人間の命の大切さや豊かさを回復できるかという課題である。特に後者の課題を担っているのは、何よりもへ教育であるだろう。

今回の本は、心豊かな子どもたちを育てるためにまず、教育現場の方々に届けたい熱い思いで執筆・編集した。①幕藩体制下の1800年、理不尽な差別によって殺された5人の若者の史実を通して差別の苛酷さや命の大切さを、②過去帳(※)一枚以外には書き残されたものなど何もなくても、2016年には3度目の墓石を建て、200年以上も受けつがれてきた「むら」(被差別部落)の人々の思いをとらえてもらいたいと思う。

その「思い」は何なのだろう。理不尽な差別への怒り、肉親を失った言いしれぬ悲しみはもちろん、へ命への愛おしさ・命のかけがえのなさ(※)を語りついできたと思わずにはいられない。この実践事例集は熱い思いを現代に受けつぐ「思い」のりレーなのである。

※故人の情報を記し置く帳簿

教育政策課

12月10日世界人権デー

昨年に引き続き、今年も新型コロナウイルスが飛び交いました。そのような中、コロナ差別やワクチン接種に関わるハラスメントが起きている報道もされてきました。また、国外でも仕事をなくし生活に困窮する人々、さらには紛争や内乱などで市民がさらに窮地に立たされている報道もされてきました。

グローバル化した現在、いろいろな問題が一国だけの問題ではなくなってきました。12月4日〜10日は人権週間です。また、10日は世界人権デーです。身の回りの人権問題はもとより、世界的な問題についても注視していきたいですね。

筑紫野市人権尊重の
まちづくりスローガン

自分が人からされたり、
言われたりして、
いやなことは、
自分は人にしない、言わない

平成29年度筑紫野市総合教育会議にて、子どもにも大人にも理解でき、実践に移せるスローガンとして決議されました。